

第3学年総合的な学習の時間指導案

日 時 令和7年11月27日(木)
第5校時 13:30～14:15
対 象 第3学年1組 30名
対 象 第3学年2組 30名
授業者 T1 松本 美佐
T2 河野 駿輝
会 場 2階 3年教室

1 単元名 農園おうえん団！(33/51時間)

【探究課題】 地域の農業や生産者と支援する人々(町づくり)

【学習事項】 地域の農業や生産者の現状と自分たちの生活との関わり

地域の農業を支える人々や組織とその思い

地域の一員として、地域の農業を支える活動や取組

2 単元の目標

農園や野菜を販売する店の見学や農作業の体験、地域の農業を支える人々との出会い等を通して、畑(緑)のよさや都市農業の現状、生産者の工夫や思いを理解し、地域の産業の在り方について考えるとともに、地域の農業を支える活動を通して、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域には多くの農園があることや、地域の農業のよさと課題及びそれに携わる人々の願いを理解している。 ②調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③地産地消の推進や食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、地域の農業のよさや生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	①地域の農業についての課題を設定し、自分にできる解決方法を考え、見通しをもっている。 ②人に聞いたり、実際に見たり、書籍やICTを活用して調べたりして必要な情報を集めている。 ③集めた情報を比較したり分類したり、整理して考えている。 ④他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現している。	①課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて解決しようとしている。 ②異なる意見を取り入れ、新たな考えを見付けようとしている。 ③地域との関わりの中で、自分にできそうなことを見付けようとする。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、以下のとおり学習指導要領の第2章第1節の内容(2)に基づく。

実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理、分析してまとめ・表現することができるようにする。

西東京市の地域をテーマにした学習によって自分の暮らしへの愛着、将来につなげる「ふるさと探究学習」を踏まえ、まず、地域に関連する知識の中から問いを見いだす。その問いを解決するために取り組む体験等を通してもった疑問に基づいて課題を設定する。そして、課題を解決するために情報を集め、整理・分析、まとめていく過程で新たな課題を見付けるといった探究のプロセスを繰り返すことでそれらの資質・能力の育成を目指す。本校では、第3学年の教科学習と関連させながら、理解を

深めたり知識を活用したりすることができる農作業の体験をするとともに、西東京市が「みどりがあふれ、みどりに包まれていると実感できるような」市の実現を目指して地域農業を支えようとしていることを理解し、児童が地域の一員として自分たちにできることを見付けて行動できるようにすることができる題材と考え、設定している。

(2) 教材観

本単元では、第3学年における各教科での学習内容を関連付けながら、西東京市について調べたことを基に、児童の興味、関心を生かして野菜を育てる活動を通して探究をスタートさせた。

西東京市の魅力の1つである「みどり」(緑被率の確保)に貢献しているのが農地である。その農地(みどり)を守っていくために都市農業が抱える課題や日本の農業の課題につながる教材でもある。しかし、発達段階や生活経験、実態等から、農業に課題を見いだすことは難しいと考える。

農業体験をすることで、農家の仕事への理解を深めるとともに生産者の思いを知り、概念ではなく身近な人・地域が抱える問題として(広くは農業全体の)課題を捉えることで、「自分たちにも何かできることがないか」と考えられるようにしていく。その中心となるのが「野菜」であり、野菜は食についても考えるきっかけとなる。本単元での学習が、高学年での総合的な学習の時間の一層の充実と、社会科や家庭科での学習への連続した学びとなるようにしていく。

5 児童について

目指す児童像(中学年)

友達と関わりながら、自分に合った学び方を工夫できる子

(1) 児童観

本学年の児童は、素直で率直に感情を表しながら意欲的に活動する児童や、落ち着いて静かに活動する児童など様々である。個々の課題についても、各々の課題に対する認知度が異なり、集団行動が難しかったり一斉指導が通りにくかったりする。友達を助ける児童が多い反面、つい友達にきつく接してしまい、良好な関係が構築しづらい児童もいる。

児童は、総合的な学習の時間の導入で「ふるさと探究学習」を行っていくことを知った。これまでの学習では、畑が通学路の周りにあることや、1、2年生の生活科の学習では農園にお世話になっていたため、「身近に緑が多い」ということが分かった。また、調べ学習では、「西東京市は緑を大切にしている」ということを知り、農家見学で学んだことを通して、自分たちも野菜を育てたいと考え、栽培を始めた。この活動の中で児童が最も問題視したことは、栽培する方法は個人か集団かであった。そこで、メリット・デメリットを出し合い、共有した上で、学年として「自分の育てたい野菜を育てる」を選択し、その野菜をどう育てるか(個人か集団か)は、そのグループ(「野菜グループ」)に委ねた。グループによっては、教員に話し合いの進行を依頼してきたり、自分たちで話し合うものの、何となくうまくいかないまま進んでいたりした。今後は、合意形成に向けて話し合う能力を高めていく必要がある。

本単元は、農業と関連して食について考えることも想定される。食に関しては、学校で一番、給食の残菜が多い学年である。第3学年では、極度の偏食の児童が2割、「野菜が嫌い」等の理由で通常量を食べない児童が2割程度いる。本校では、令和5年度にはスーパーマーケットにポップを展示したり、保育園・幼稚園や下学年に地場野菜をもっと食べるよう宣伝したりする活動を行った。また令和6年度には、自分たちで調理をし、地場野菜をもっと食べるよう下学年に宣伝する活動を行っている

(両年度とも、探究課題は「食」としている)。本学年の児童においては、同様の活動をしたいと考えて実践するにせよ、表面的な活動にとどまることなく、児童一人一人の生き方に影響するような体験、学びにしたい。

(2) 目指す児童の姿

(1) を受けて、児童一人一人が自分の特性を理解し、自分に合った方法を選ぶとともに、自分自身の学びを振り返り、よりよい(目指す)結果を生むために、自ら学習方法を改善しながら取り組めるようになって欲しい。うまくいかないこともやってみる、という姿勢を身に付けることを願っている。用意されたもの(こと)をなぞるのではなく、自分で考え、計画し、挑戦したといえる経験をさせていく。そのために、児童の思考につながる体験や教科学習を意図的に設定し、児童が考える活動を想定し、準備しておくことで柔軟に対応できるようにする。また、試行錯誤をすることが可能なゆとりのある単元構成にする。これらによって、児童一人一人が興味・関心に応じて学習スタイルを選び、友達と協働しながら自ら学びのサイクルを回していけるようになることを願っている。

大単元を通して児童が学びを振り返った時、互いに充実した学びであったことを喜び合い、次学年の学習への意欲や展望を抱くような思いを共有し、協働的な学びの良さを感じられるように学習のまとめを行う。

6 研究主題に迫るための手だて

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
学習スタイルの違い	・集団での学習が苦手である。 ・座っているのが苦手である。 ・コミュニケーションがうまくとれない。 ・まとめたい方法が違う。	・課題解決の方法を自分で選ぶ。 ・利点/難点を理解した上で選択し、活動する。 ・きまりを明確にする。 ・情報を共有する方法を示す。 ・表現方法の個別選択。
生活経験の違い	・野菜の栽培に関する家庭環境、保育園や幼稚園での経験が異なる。 ・食に関しての経験が異なる。 ・地域の方と関わりがあるかどうか。	・体験(草取り、水やり、成長を目の当たりにする、収穫、矢ヶ崎農園での農作業)をする。 ・社会科見学での気付きを取り上げる。 ・近隣の農園へ行き、農園や地域の方に出会う。 ・家庭の協力を得る(買い物、料理)。
感じ取り方の違い	・農業のよさと課題を理解すること。 ・農業やそれを支える取組に携わる人々の願いを理解すること。 ・課題に感じる。	・農業を体験する。 ・産業振興課の方の話を聞く。 ・自分たちの考えを伝え、それに対する反応(実際の声)を知る。 ・各家庭向けのアンケートを実施する。 ・児童の思考に関係すると想定される材を適時に入れる。

7 単元の指導計画と評価計画（51 時間扱い） [: 個別最適な学び 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	手だて ◆指導上の留意点	【評価規準】 〈評価方法〉
1～5	  ○「総合的な学習の時間」について知る。 ○第3学年の1年間の主な学習を知る。 ○深めてみたい学習内容について出し合う。 ○西東京市「ふるさと探究学習」を知る。 ○予想する。「西東京市は①学校が多い②緑がいっぱいで自然があふれている③子供に優しく、思いやりがある④子供、大人、みんなが楽しめる のではないか」 ○予想をもとに調べる。 ○調べて分かったことを共有する。 ○次に調べたいことを明確にする。 ○共有の仕方を再確認する。 ○共有した情報の参照の仕方を知る。 ○要約の大切さに気付く。 ○分かったことや気付いたことを出し合う。	導入の工夫 航空写真と地図（社会科「市の様子」） 植物の発芽、成長の観察（理科「植物の育ち方」） 学習ツールの選択 学びの個別化・個性化 一人で 友達と 相互評価 農家見学（社会科「農家の仕事」）	【思・判・表】② 〈行動・スプレッドシート〉 【態度】① 〈行動観察〉
6～15	  ◇今後の活動の見通しをもつ。 ○仮説を立てる。「野菜作りをしたら農家の気持ちが分かるのではないか。」 ○野菜を育てる計画を立てる。 ○野菜の育て方などを調べる。 ○育てた後どんなことができそうか、収穫までどのようなことをするのか調べたり考えたりする。（ロードマップ作り） ○育てる野菜や分担を決める。 ○必要な準備をする。 ○活動の進め方を各チームで検討する。	学びの個別化・個性化 トマト 枝豆 キュウリ トウモロコシ 小松菜 にんじん 野菜作り（総合） 振り返り	【知・技】② 〈行動観察〉 【思・判・表】②③ 〈ワークシート〉 【態度】①② 〈行動観察・スプレッドシート〉
16	 ◇これまでの学習で分かったことをまとめる。 ○振り返りを共有する。 ・農作業自体について ・農家の仕事の特性 ・学習活動について ○農家の方の気持ちを考える。 ○分かったことや考えたことをまとめる。 ・知識 ・感想 ・学習への意欲 ・自らの行動への意欲 なぜ→農家さんを応援したいから	◆同じ野菜、異なる野菜で各チームの考えたことを知ることで、新たな気付きが得られるようにする。 ◆自分の考えを言語化することが難しい児童のために、意見を引き出しながら板書でまとめ、児童が自らの学びを認識できるようにする。	【態度】② 〈行動観察〉 【知・技】① 〈振り返り〉
スーパーマーケット見学（社会科） ◆サミットストア向台町店を見学し、地場野菜（果物）が販売されていることに気付くと想定する。 ◆地場野菜が売られている店が他にもあることに気付く児童がいると想定する。 ◆事前課題で、各家庭の野菜購入に関するアンケート調査を行い、実態把握をする。（どこで購入しているか。地場野菜を購入しているか。等） ◆移動の際に直売所を通り、農園の野菜の流通経路が複数あること、農産物直売所「めぐみちゃん」の看板に気付くと想定する。			

21 	○農地の減少、農家の抱える課題、地域農業を支える存在やその思いについて全体でまとめ、共有する。 ○地域の農業や生産者の現状と自分たちの生活との関わりを考える。 想定される、児童が捉えた問題： ・緑を残したいのに、農地がどんどん減っていつている。（キーパーソン講話より） ・地球温暖化の影響で、野菜作りが大変。（講話と栽培体験より） ※相続、日本の農業が抱える後継者不足等は発達段階的に出てこないと考える。 ・応援する人がいて、様々な取り組みもされているが、あまり知られていない。利用されていない。（講話と社会科アンケート結果より） 想定される課題 ①農園の野菜を食べる人が増えれば、②農園について知ってもらい、農園の野菜を買う人が増えれば③農園を応援するイベントが盛り上がり、農家が農業を続けられ、農地を守ることにつながる。	◆単元当初立てた予想 「西東京市は②緑がいっぱいで自然があふれている」に関連付けられるようにする。	【知・技】① 〈振り返り〉
22 23 	○課題を確認する。 ◇課題解決に向けて自分たちにできることを考える。 ○一人一人が考える。 ○考えを出し合う。 ○実現可能かどうか、楽しい活動になるか、課題解決に有効か、協力して取り組めるかどうかを条件として話し合う。	◆他者に働きかける前に、自分たちの現状について考えさせることで、課題解決の難しさに気付けるようにする。 ◆T1、T2の体制、協力者の体制を検討しておく。	【知・技】① 〈発言・振り返り〉 【思・判・表】① 【態度】②③ 〈行動・ワークシート・振り返り〉
24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 (本時) 34 35 36 37 38 	◇課題解決に向けて自分たちにできることを決める。 ◇課題を設定する。 活動の見通しをもつ。 ○作り方等を調べたり、インタビューに行ったりする。 ○計画・準備・実行 ○振り返り、記録の蓄積 学びの個別化・個性化 農園の魅力を伝えたい 地場野菜を食べてもらいたい 取組を提案したい ◆地域に向けた宣伝活動（学校に来ていただき、聞いていただく／市への提案、公共施設や店舗・直売所の協力を得る）実施計画、役割分担 ◆地域に知らせたい内容 対象者や内容、方法の検討。 ◆調理 ターゲットの野菜検討 協力者の確認 調理・実習計画 ◆農業体験で収穫する大根を切干に加工する。（来場者プレゼント）事前実習 ◆宣伝活動の方法 販売系：POP、チラシ、シールなど 提案系：チラシ、ポスター、動画など ○結果の確認、改善 ○再度実行	◆活動の改善が図れるよう十分な時間を確保する。 ◆必要に応じて、保護者や栄養士、農家の方の話を聞けるようにする。	【知・技】② 〈振り返り〉 【思・判・表】①②③④ 〈行動・ワークシート・ICT ツール〉 【態度】①② 〈行動・成果物・作品等〉 【知・技】①② 〈成果物・行動〉
39 40	○小単元の振り返りをする。 ・それぞれの活動の成果と課題 ○大単元のまとめをする。 ・自分の変容	振り返りの共有	【思・判・表】③ 【態度】③ 【知・技】③ 〈振り返り〉
41～ 51	※3学期 ○学んだことを他学年、保護者、地域の方に伝える（学習発表会）。	◆蓄積した記録や成果物を用いてドキュメンタリー仕立てにする。	【知・技】③ 【思・判・表】④ 【態度】③

8 本時（全 51 時間中の第 33 時）

(1) 本時の目標

- ・課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて解決しようとしている。
（主にグループ①まとめ・表現の段階、グループ②課題の設定の段階、グループ③情報の収集の段階）
- ・異なる意見を取り入れ、新たな考えを見付けようとしている。
（主に、グループ④整理・分析の段階）

(2) 本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

学習形態	○学習内容 ・ 学習活動	◆指導上の留意点、配慮事項 【評価規準】《評価方法》 <u>手だて</u>
導入 5 分	○単元のめあてを確認する。 ○学習の見通しをもつ。 ・それぞれの活動内容、本時のめあてを確認する。 活動の想定 ・伝える活動の場合 ○「農家の方の思い」「地場野菜の魅力」「取組」など伝える内容に関する情報収集／整理・分析／まとめ・表現 ○表現方法の検討 ・作る活動が伴う場合 ○作り方や必要な物などの情報収集／整理・分析／計画・実行、互いの実践の比較等 ・外部と関わる場合 ○計画、準備、交渉等 ・注意事項と活動場所を確認する。	◆グループの進捗状況が分かるよう、選択式のスプレッドシートを用いて互いに参照できるようにしておく。 ICT ツールの活用 ◆毎回変わらない内容（それぞれのグループの目的、活動内容等）は黒板に提示して、すぐ目にするようにする。 個別の目標 学びの個別化・個性化 農園の魅力 伝えたい 地場野菜を食べて もらいたい 取組を提案 したい ◆児童の実態を考慮してグループの活動場所を指定する。
展開 30 分  	○それぞれのめあてに沿って活動する。 グループ①まとめ・表現の段階 （作品や成果物を作るグループ） ・協力して完成させたり、実行する際に必要なことを打ち合わせたりする。 グループ②課題の設定の段階 （一度活動→結果確認グループ） ・作品や成果物等、結果が分かる資料を参照しながら改善点について話し合う。 グループ③情報の収集の段階 （一度活動→課題発見グループ） ・課題解決に向けて、情報を得る方法を確認し、協力して情報を集める。 グループ④整理・分析の段階 （一度活動→改善に必要な情報を得ているグループ）	◆活動内容によって主に担当する教員を予め決めておくことで、各グループの学習状況を把握しやすくする。 ◆話し合いに行き詰まったグループは、同じ活動（場所や対象は異なっても可）をしているグループや、進度的に困っていないグループ（グループ④）に助言を求めるよう促す。 ◆計画的にこれ以上進められないグループは、他グループに協力できるよう、立場を明確にして助言をするなど協力することを促す。 【態度】①〈行動観察、作品や成果物〉 （グループ①）よりよいものが出来上がるよう、協力して完成させようとしている。 （グループ②）結果をもとに、目標に向かって活動を見直そうとしている。 （グループ③）協力して課題を解決しようとし

	・比較したり、分類したりしながらよりよいと考えることを理由とともに話し合い、絞っていく。	ている。 【態】②〈行動観察、作品や成果物〉 (グループ④) 異なる意見を取り入れ、新たな考えを見付けようとするができる。
終末 10分	○本時の目標に対する振り返りをする。 ○次時の学習について見通しをもつ。 ・探究日記を書く。 ・書き終わった児童は他者参照する。	◆自ら確認して学習に取り組めるように「探究日記」には次回したいことを記録することで、学びの連続性を補助する。

(3) 本時の評価

評価規準	
①課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて解決しようとしている。(主体性・協調性) ②異なる意見を取り入れ、新たな考えを見付けようとしている。(自己理解・他者理解) 【主体的に学習に取り組む態度】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
「十分満足できる」 ①② 客観的に活動を見つめることで現状の課題を見付け、その課題を相手が分かるように伝え、解決方法を提案しながら、周りの意見も聞いて活動を分担するなど、協働的に解決しようとしている。	・板書に目標や活動を進めるポイントを示しておくことで、それらを確認しながら活動できるようにする。 ・適切な行動を褒める。
「おおむね満足できる」 ① 自分のすべきことが分かり、担当することがよりよくできるように取り組んでいる。解決方法について助言を受けながら、よりよい方法を選ぶために話し合い、同意しながら解決しようとしている。 ② 他者の意見の良さに気付く様子(つぶやき、記述)が見られたり、他者の意見等を受けて、考えたことを述べたりしている。	・ロールモデルとなる活動の様子や助言者を紹介する。 ・作戦書(思考ツール)に立ち返るよう促す。
「努力を要する」 ① 目的から逸れる行動をしてしまい、指摘を受けても取り合わなかったり、行動を変えられなかったりしている。 ①② 異なる意見を受け入れなかったり、反対するのみで理由を言わなかったりする。	・自分の状況が分かるように、何をしているのか問う声掛けをする。 ・作戦書(思考ツール)を確実に作成し、管理する。 ・時間をおく。場所を変える。 ・活動に集中できる場を提案したり用意したりする。

(4) 板書計画

農園おうえん団！ 学習のポイント	チーム ・ 目指すゴール ・ 方法 ・ 対象 ・ 場所 など (ロードマップ)	チーム ・ 目指すゴール ・ 方法 ・ 対象 ・ 場所 など (ロードマップ)
---	--	--

※ロードマップの数はチーム数による。